

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 105号

2014/08/11 発行
株式会社 立花商店

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：両市場とも先週比で上昇、3年ぶりの高値に近づく

① 最高 12月 LDN 市場£2,005 /12月 NY 市場\$3,215 (8/4,5) 先週比 **LDN+£16/NY-\$4**
② 最低：12月 LDN 市場£1,987 /9月 NY 市場\$3,195 (8/7) 先週比 **LDN+£49/NY+\$30**
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場£51 (傾向↑) / NY 市場\$54 (傾向↑)
週内建玉推移：LDN市場 275,293 枚(8/1 終了時)⇒278,043 枚 (8/7 終了時) **+2750 枚**
NY市場 218,211 枚(8/1 終了時) ⇒217,007 枚 (8/7 終了時) **-11204 枚**

2、アジア：ココアバター取引は膠着状態＝カカオ豆価格ここ数年で最高値(8/8)

先週カカオ豆価格が3年ぶりの高値を更新したことで、チョコレート製造メーカーからの需要が後退し、アジアのココアバターの取引は動きが無かった。

2013/14 期にはカカオ豆に対する需要が供給を上回るという予測から、ロンドン先物価格は今年の初めから16%上昇した。月曜日には3年ぶりの高値である2011ポンドに一時達したが、木曜日にはそれに迫る勢いで12月きりの先物価格が3ポンド上昇し2005ポンドで引けた。

今年の1月にはトンあたり\$6800であったココアバター価格は上昇し続け、ここ最近では\$8400という高水準に留まっている。

シンガポールのディーラーは「カカオ豆価格の高騰は圧砕業者に影響を与えている。今ではココアバター価格が非常に高くなっており、業者が買い控えている。しかし一方でココアパウダーは全く取引がされてないと言ってよいくらい動きが無い。」と述べた。

また「したがって、最近では工場の稼働率が落ちており、圧砕業者のマージンが少なくなっている。」と加えた。

バターレシオは今週、ロンドン先物価格に対して2.47から2.5で取引されているが、一部では2.4から2.42という声もある。

インドネシアのディーラーは「今のココアマーケットは、価格が全くナンセンスだ。ロンドン先物価格は非常

に高騰している。この状況下ではココアバターとパウダーを両方買う方法で取引をしたいと考える業者もいるだろう。この場合のコンボレシオは2.9となっている。とはいえ、カカオ豆価格が上昇しているため全体の価格が高いことに変わりはなく、業者はどうやってその仕入コストを捻出したらよいだろうか…」と述べた。

アジアのバターレシオは依然高いままであるが、この価格水準でココアバターを販売できている圧砕業者はあるのだろうか？

コンボとは圧砕業者がココアパウダーとココアバターをセットで販売することで、パウダー在庫だけが積みあがっていくことを解消する仕組みである。

ネスレの関係者によると、カカオ原料の仕入れコストの上昇が、2014期の第1四半期の利益を減少させているという。

最近のカカオ豆価格の上昇の1つの原因として考えられているのは、投機マネーの流入である。これによりネスレやマーズ、ハーシーズなどの主要メーカーではチョコレートの価格を値上げした。

一方でアジアのパウダーマーケットの動きは鈍い。パウダー価格は\$1500~\$2100の広いレンジで取引されている。

3、カメルーン：2013/14期のカカオ豆生産量、過去最高水準に達する見込み(8/4)

カメルーン最大のカカオ・コーヒー農業協会は「まもなく終了する2013/14期のカカオ豆生産量は4年前に記録した最高記録と同水準になる見込みである。」と述べた。

またカメルーンの70万人もの農家を代表するMusima氏は「我々が認識している統計結果では、2013/14期のカカオ豆生産量は24万トンに達している。2012/13期では22万8911トンとなっており、今期は上昇した。」と述べた。また彼は「良い天候条件により、生産高予測を高くさせた。中でもカメルーン最大のカカオ生産地となっている南西部では9万6000トンを生産した。昨年で考えると、この南西部だけでカメルーンカカオ豆の40%分を生産している。」と述べた。

長年、カメルーンの年間生産量は15万トン~20万トンにとどまっていた。しかし2009年~2010年には24万という生産量を記録した。そして今ではカメルーンのカカオ豆生産量は世界第5位となっている。同国のカカオ豆のシーズンは8月から始まり翌年の7月までで区切られる。

カカオの業界から公表される情報によっても、今期のカメルーンのカカオ豆生産量は2012/13期と比較して伸びるとされている。カメルーンのカカオ豆輸出量は20万トンとなった。

詳細は8月の下旬に明らかにされる。

4、コートジ：8月3日までにカカオ豆の着荷量、170万7000トンに達した(8/4)

コートジの主要港に着荷したカカオ豆は、8月3日までに約170万7000トンに達した。

(コートジのカカオ豆のシーズンは10月～9月)

昨年同時期には138万8000トンであり大幅な上昇となっている。

輸出業者によると、7月28日～8月3日の間に約1万4000トンのカカオ豆がアビジャン港とサンペドロ港に向けて出荷され、この数字も昨年比で上昇しているという。

5、エボラ出血熱によるカカオ豆相場への影響について(8/6)

ここ最近エボラ出血熱の大流行について注目が集まっているが、カカオ豆の生産地でのウイルス蔓延について触れられた話題というものは少ない。しかし世界のカカオ豆の生産量の70%は西アフリカで生産されており、エボラ出血熱の流行による影響が懸念される。実際に今までエボラ出血熱の影響を受けているリベリア、シエラレオネ、ギニアでは生産量が減少している。今のところ、世界第1、第2位の生産国であるコートジ、ガーナには病気が広がっていない。しかし今後これらの国にも拡大した場合は、生産量低下に伴いカカオ豆の価格上昇につながるだろう。

6、インドネシア：7月スラウェシ島のカカオ豆輸出高、47%下落(8/5)

インドネシアのカカオ豆主生産地となっているスラウェシ島からの7月の輸出高は、昨年の8671.88トンから47%下落し4568.5トンとなった。

インドネシア全体では今年、カカオ豆生産高は9%上昇し50万トンに達する見込みである。

今週のカカオ豆 ホンジュラス/MAYAN RED GOLDEN-3

立花商店で取り扱うカカオ豆、またサンプルでテイスティングをしたカカオ豆をご紹介します。

今回は先週ご紹介した品種まで正確に特定し管理育成されている高級グルメカカオの生産者の取り組みについてご紹介します。

◎収穫後処理 -

1. 集荷

カカオポッドが熟した際に集荷し手でパルプ部分をポッドから取り出します。その際にファインカカオと定義した以外の品種のカカオが混ざらないように注意します。また、カカオの枝やポッドの殻が混入しないようにします。地域によっては農家毎に発酵と乾燥を行うところもありますが、こちらの豆については販売者が設置した発酵所にて品質を一元管理しています。集荷から発酵所へ届けるまでは12時間以内に処理します。



ポッドの完熟度を確認する



殺菌した容器にパルプを集め、計量する

カカオを割り、手で取り出す



トラックで発酵所まで運ぶ

2. 発酵

発酵所にて木箱にパルプを投入し5日間発酵させます。発酵中の温度とphを常に記録管理し、また攪拌の回数とタイミングも48時間後、96時間後と豆の品種によって設定しています。

3. 乾燥

乾燥専用のビニールハウスの下で木でできた乾燥台の上で乾燥をさせます。天日干しで8日間乾燥をさせます。



《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田、鶴田、坂元

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp